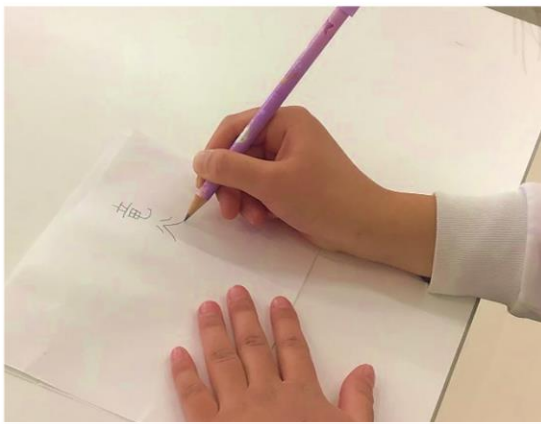


龍 竜谷通信

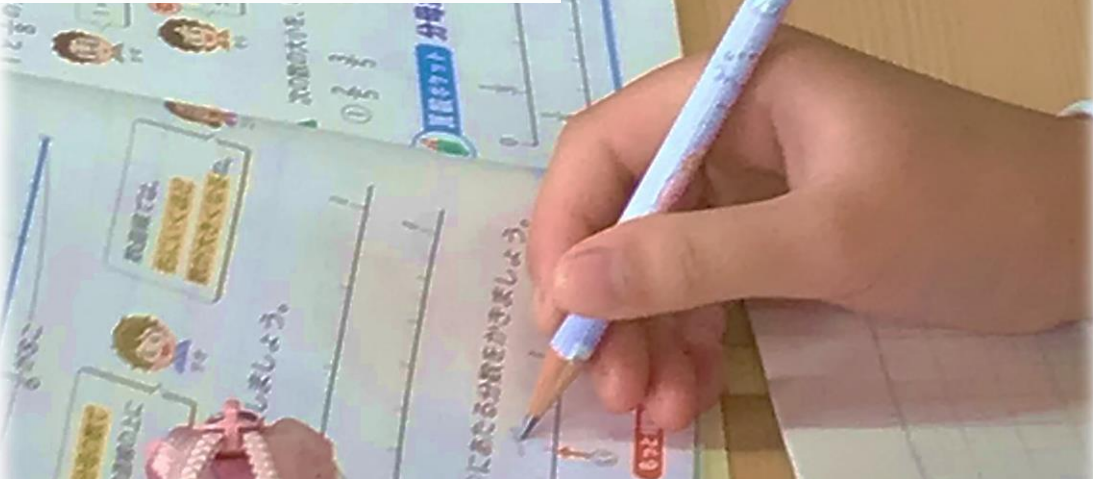


令和6年12月
第8号

げんきな子
がんばる子
すなおな子
くふうする子



鉛筆の角度もよいです。誰の手がわかりますか。



いつ見ても（左上の写真も同じ子の手を別の日に撮影したものです）よく整えた鉛筆を、美しい持ち方で持って書いている竜谷っ子の一人です。鉛筆が、とてもスムーズに紙の上を動いています。

鉛筆の力

校長 手島 露子

数年前、久能山東照宮博物館を訪れた際、日本最古の鉛筆とされるものが展示されているのを見ました。徳川家康公の遺品であるとのことですが、6cm足らずのとても短いものでした。好奇心旺盛で、新しいものの好きとされる家康公は、この鉛筆をどのように持ち、何を書いたのでしょうか。いずれにせよ、筆のように途中で墨を足すことなく、ずっと書き続けられる利便性に、さぞ驚かれたことでしょう。

小学校に入學して初めての学習は、紙に自分の名前を書くことから始まります。小さな手に新しい鉛筆を持ち、真剣に紙に向かう姿は、いつ見ても感動を覚えます。そして「鉛筆」という、とてもシンプルな道具がもつ深い価値を改めて考えさせられます。

しかし今、この鉛筆事情に変化が起きています。社会全体で鉛筆離れが進むとともに、望ましいとされる鉛筆の持ち方をしている小学生の数は、全体のわずか一割程度という調査報告もあります。本校も例外ではなく、親指を人差し指の上に乗せる、鉛筆を直立させる、手の中に納まるほどの短い鉛筆を使うなど、ぎこちない持ち方や使い方が散見されるのが現状です。本校では、情報活用能力育成の一環として、「書く」という活動をタブレット端末で行うことも多いですが、その一方で、鉛筆を使って書く活動も大切に行っていきたいと考えています。鉛筆は、木の軸の感触を味わいながら、自分で筆圧をコントロールして書きます。それに加え、持ち運びが容易で、いつでもどこでも使え、さらには使い終わった後、自然に還る素材でできています。このように、鉛筆を使うことには非常にたくさんの意義や価値があります。シンプルなお道具でありながら、子供たちの学びと成長において欠かせない存在である「鉛筆」。これからも鉛筆のもつ力を活用し、子供たちが豊かな学びの経験を積む手助けをしていきたいと思えます。

それぞれの目標に向かって



最近、小中学校でのマラソン大会や持久走大会を廃止する動きが増えています。これには「子供や教師の負担軽減」「安全面の考慮」「個の興味や運動能力に応じた運動の推奨」などの理由があります。どれも一理あると感じています。

11月29日（金）素晴らしい天気にも恵まれ、また多くの保護者の方に見守っていただきながら、竜谷小学校のマラソン大会を実施いたしました。本校のマラソン大会は、以下のように行っています。

- ◇大会当日までに2週間の「かけ足週間」での練習を実施
- ◇練習は「走る」「歩く」を組み合わせたトレーニング方法を導入
- ◇コースは、運動場及び遊歩道等、校内の安全な場所より決定
- ◇練習・本番ともに、コース各所で教員や補助員による見守り
- ◇それぞれの学年の発達段階に応じた大会コースの距離を設定
- ◇順位だけでなく、個々の目標に向かうことの大切さを共有
- ◇仲間が走る際に、心を込めて応援する雰囲気づくり

ゴール後は、倒れこむ姿、満面の笑顔、悔し涙、ガッツポーズなど、様々な竜谷っ子の姿がありました。どの姿も素敵でした。竜谷っ子のよりよい成長のために、どのような大会の在り方が望ましいのか、今後も毎年よく検討しながら取り組んでまいります。

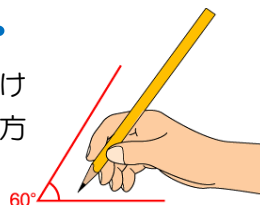
巻頭言について・・・

短くなってしまった鉛筆で無理に書き続けようとする、結果として、よくない持ち方のくせがつく可能性があります。

適切な長さの鉛筆を使うことにより、

- ・鉛筆がうまく動かせるので、正しく美しい字が書ける
- ・鉛筆の先に力がうまく伝わるので、適度な筆圧で書ける
- ・無理な力がいらないので、手が疲れない
- ・のぞき込まなくても鉛筆の先が見えるので、よい姿勢を保てる

などの効果がねらえると言われています。大変お手数ですが、一度お子様の鉛筆の長さをご確認いただき、短かすぎる場合は、交換するか、補助具をつけるなどのご支援をお願いいたします。



3年生 タブレットを使ったスピーチ練習

3年生が、おもしろいタブレットの使い方をしていました。金属の壁にタブレットケースの磁石を利用して画面を固定し、国語科のスピーチの練習をしていました。画面の中の自分に向かって話すことができます。また、あとで録画を見返すことで、声の大きさ、話す速さ、顔の表情などが確認できます。そこから自分の課題が整理できれば、次の練習や本番の発表に向け、学びの調整ができます。思わず「いいね！！」となりました。

思考ツールを活用して12月の自分の目標を決めよう 5年1組

<p>整理整頓</p> <p>するのが得意なこと よくできること</p> <p>人の話を聞くことは入るを促せる</p>	<p>あいさつ</p> <p>授業の時に、発言</p> <p>忘れ物をなくす</p> <p>提出物の期限を守る</p>
<p>学級や全校の+ にならないこと</p> <p>なわとび</p> <p>人のために行動、手伝い</p> <p>無言清掃</p> <p>声かけ</p> <p>するのが得意なこと よくできること</p> <p>タブレットを正しく使う</p> <p>学級や全校の+ にならないこと</p> <p>授業の準備 はかどく</p>	<p>を12月頑張るぞ</p>

12月の自分の行動目標
・11月は忘れ物が多かったから忘れ物を減らせるようにする。
・本日は積極的にする(給食の配膳の時とか。)

5年生 思考ツールで整理した「12月の目標」

各階の廊下に、学年掲示板が設置されています。そこには、行事の思い出の写真や、感想などを掲示しています。5年生の掲示板には、12月の目標が「思考ツール」で整理されていました。縦軸と横軸に観点を設けて、四つに整理する「座標軸」を使っています。縦軸が「するのが得意、得意でない」横軸が「学級や全校の+になる、ならない」となっていました。一人一人の考えや思い、学びに向かう姿がよく分かり、興味深いです。